

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 城南 高等学校

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>スクール・ミッション</b><br/>(本校の存在意義や社会的役割<br/>目指すべき学校像)</p> | <p>未来を切り拓く力を持ち、広く社会への貢献を志す有為な人材を育成する学校<br/>独自のキャリア教育プログラム「ドリカムプラン」や理数教育の充実を通じて、自らの進路実現に向けて常に先を読みながら行動し、社会貢献を志す人材を育成します。</p> |  |
| <p><b>スクール・ポリシー</b><br/>(三つの方針)</p>                       | <p>グラデュエーション・ポリシー<br/>(育成を目指す資質・能力に<br/>関する方針)</p>  | <p>自己の興味を追求し、自ら学びを深め「自らの人生を何に使うか」という使命を自覚できる人材<br/>「未来を切り拓く力」を有し国際社会で活躍できる人材</p>   |
|   | <p>カリキュラム・ポリシー<br/>(教育課程の編成及び実施に<br/>関する方針)</p>   | <p>主体的な学びを中心に据えた教育活動の改善を図るとともに、教育課程の開発を行う<br/>進路学習(ドリカムプラン)と課題研究(ESD探究)の両立を図る「総合的な探究の時間」を実施する(理数コースを除く)<br/>理数教育の充実を目指し、高い課題解決能力の育成を図る課題研究(理数ゼミ)を実施する(理数コース)</p> |
|   | <p>アドミッション・ポリシー<br/>(入学者の受け入れに<br/>関する方針)</p>   | <p>自分の将来に向けて能動的に活動できる生徒<br/>様々なことに興味関心をもっている生徒<br/>多様な考えを受け入れる柔軟な態度をもっている生徒</p>  |

学校運営計画(4月)

| 学校運営方針  |                                |  | 評価<br>(総合) |
|---|--------------------------------|--|------------|
| 昨年度の成果と課題   | 年度重点目標                         | 具体的目標  |            |
| <p>&lt;令和6年度の成果&gt;<br/>○ICT端末を活用した授業が定着できた。<br/>○生徒が第一志望を貫徹できる指導・支援を行うことができた。<br/>○課題研究において、指導内容に改善の余地があるものの、職員全体で組織的に取り組むことができた。<br/>○日々の学校生活や様々な学校行事を通して、他者と協働し、目の前の課題に果敢にチャレンジする生徒の姿を見ることができた。<br/>○計26回の研究授業を実施することができ、授業改善に資することができた。</p> <p>&lt;令和7年度に取り組むべき課題&gt;<br/>○生徒の学力向上・進路希望実現を目指して、単元別テストを導入し、評価の場面や方法をさらに充実させる。<br/>○生徒が安全に安心して学校生活が送れるように、人権教育、自転車通学者のヘルメット着用、異常気象時の対処等様々な領域で生徒を指導・支援する。<br/>○生徒による「自浄作用」が働く環境を醸成するための具体的な仕掛けを用意する。<br/>○近隣の小学生・中学生など弱い立場の人に対して正しく気を配ることができるような判断力・実践力を育成する。<br/>○職員の超過勤務時間縮減のために、良い意味で割り切って業務を行うことができるような職場環境を目指す。</p> | <p>(1)本質的な学ぶ力、主体的に学ぶ態度の養成</p>  | <p>ア 単元別テスト、パフォーマンス課題等による日常的に見通しをもって学習する態度の育成<br/>イ 指導・目標と評価の一体化による学力のさらなる伸長<br/>ウ 能動的な学びとICTを活用した学習の効率化の推進による学びの質の向上</p>          | <p>A</p>   |
|   | <p>(2)善悪を正しく判断し行動できる態度の養成</p>  | <p>ア 高い規範意識、自尊感情及び人権感覚を有し、互いに敬意を払い合える心と態度の育成<br/>イ 生徒の多様性を考慮した組織的・継続的な指導・支援体制の構築<br/>ウ 心身のバランスのとれた合理的かつ効率的・効果的な部活動の推進</p>          |            |
|   | <p>(3)主体的に自身の進路を選択できる態度の養成</p> | <p>ア 大学や卒業生等との連携事業による社会貢献を視野に入れた進路意識の向上<br/>イ 進路学習と課題研究(ESD探究・理数ゼミ)の両立を図る総合的な探究の時間の開発<br/>ウ SSH第IV期のテーマに即した取組の実践と即興型英語ディベートの推進</p> |            |
|   | <p>(4)城南ブランドの醸成及び発信</p>        | <p>ア 研究と修養に励み、幅広い知識と専門性の向上を目指す教師集団の形成<br/>イ 新時制及びDXの推進による超過勤務の縮減と生徒と向き合う時間の確保<br/>ウ 地域の小中学校への積極的な広報活動の推進</p>                       |            |

|              |                | 自己評価   |   |   |  | 学校関係者評価  |  |  |   |  |   |  |  |  |                                   |
|--------------|----------------|--|---|---|--|--|--|--|---|--|---|--|--|--|-----------------------------------|
| 評価項目         |                | 具体的目標  | 具体的方策   | 生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等  | 評価(3月)   |  | 結果の考察と次年度の課題                                 | 項目ごとの評価                                    | 学校関係者評価委員会からの意見                                 |  |   |  |  |  |                                   |
| 教育推進部        | 教務課            | 授業改善   | 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善<br>個別最適な学びに繋げる一人一台端末を活用した授業方法の研究と実践を推進する | 生徒の進路実現に繋げる授業改善と観点別評価の研究を継続する   | 「単元ごとの評価アンケート」の結果から、この評価方法の意図の共通理解を図っていきたい。                      | A  | A  | 単元ごとの評価になったことで、観点別評価がより効果的に行うことができるようになった。 | A   | 新しい評価システムで、自己調整力を伸ばしたい旨を伺い共感した。小学校でも自己調整力の育成に力を入れたいと想っている。パフォーマンス課題にも取り組もうとしている。参考にした。定期考査の廃止は不安だった。しかし、スモールステップで一つ一つ知識などを積み重ねていくことの大切さを感じた。 |   |  |  |  |                                   |
|              |                | 能動的に学ぶ生徒の育成                                      | 単元別テスト・パフォーマンス課題の効果的な運用                                     | 単元ごとに学習到達度を確認することにより学力の向上を図る  |  | A  |  |  |   |  | 生徒の家庭学習の時間の向上に効果的であった。次年度はパフォーマンス課題に重点をおいて取り組んでいきたい。  |  |  |  |                                   |
|              |                | 生徒の自己管理能力の育成                                     | 社会に求められる人材たる自己管理能力の育成                                       | 各学期当初の面談週間を通じ心身ともに基本的な生活習慣を確立する<br>三者面談による学校と家庭の連携の強化と信頼関係の構築を図る              |  | A  |  |  |   |  | 面談週間を設定したことで、生徒との二者面談の機会が増えた。                         |  |  |  |                                   |
|              |                | 生徒一人一台端末の活用                                      | 生徒のICT機器の活用能力の向上  | GoogleClassroomを活用し情報共有・伝達の円滑化を図る<br>Chromebook等の個人端末を大切にすることを育てる             |  | A  |  |  |   |  | 「物を大切にする意識」や「目的外使用をしない」指導を学校全体で継続する。                  |  |  |  |                                   |
|              | DX推進課          | ICT機器の活用方法の開発・研修                                 | 教員のICT機器の活用能力の向上  | 単元別テストや観点別評価、リアテンドに依るICT機器の活用を促進する<br>ICT支援員と連携したICT活用研修を定期的実施し、情報リテラシーの向上を図る |  | B  |  |  |   |  | A   | 教員の情報リテラシー向上については、ICT支援員と連携し計画的な研修を進める。    | A  | 本年度より試行導入したClassiについて、活用範囲の拡大に学校全体で取り組む。                       |                                   |
|              |                | ICT機器やネットワーク環境の整備                                | 業務削減に繋がるICT機器の活用  | Teamsを活用しICT機器やアカウントに関する管理体制の見直しを図る<br>e-メッセージを活用し、保護者への案内文書を送信する             |  | B  |  |  |   |  | A   | 本年度より試行導入したClassiについて、活用範囲の拡大に学校全体で取り組む。   | A  | ICT機器を用いた授業が多く、授業スタイルの変化を感じた。試行錯誤をしているのだろうが、先生方の授業への意識の高さが伺えた。 |                                   |
|              | 庶務課            | 庶務(式典実施)   | 教育活動円滑化のための整備   | 式典の円滑な実施のための立案を図り、運営に努める<br>事業の円滑な遂行のため、他分掌との連携・調整を図る                         |  | /  |  |  |   |  | A   | A  | 式典の運営は円滑だった。次年度は創立記念式典行事の一環として芸術鑑賞を復活させる。  | A  | 紙媒体保存とデータ保存を仕分けし効率的に記録する環境を整える。   |
|              |                | PTA活動  | 教育活動記録保管のための整備  | 文書記録、資料の整理・保管等の効率的な処理に努める<br>紙媒体からデータ保存への移行を図る                                |  |  |  |  |   |  | B   | B  | 校内PTAの運営及び高P連、同窓会等の外部団体との連携は円滑に進んだ。継続する。   | A  |                                   |
|              |                | PTA活動  | PTA活動の円滑な運営   | 校内のPTA活動の円滑な運営に努める<br>高P連・本校同窓会等、外部の団体との連携を円滑に行う                              |  |  |  |  |   |  | A   | A  |  | A  |                                   |
|              | 生徒育成部          | 生徒育成課  | 安全指導の徹底   | 自転車マナーと安全意識の向上  |  | 交通法規を遵守し、安全に登下校できる環境をつくる<br>他人に迷惑をかけない行動力を身につけさせる            |  |  |   |  | 生活アンケートやいじめアンケートを通して生徒の困り感やトラブルをキャッチして対応に当たることができている。 | A  | A  | 登下校時の安全意識の向上は引き続き重点的に取り組んでいきたい。                                | A                                 |
| 生徒の主体的活動の充実  |                |  | 学校行事・部活動の活性化  | 学校行事を通じて主体的に活動するとともに協働する力を養う<br>部活動で培った力を学校行事や日々の生活で発揮させる                     | A  | 行事においては後片づけや環境美化など最後まで責任をもって取り組ませる。                          |  |  |   |  |   |  |  |  |                                   |
| 端正を重んじる態度の育成 |                |  | 端正とは心の在り方であることの共有   | 情操・情緒が豊かで安定した状態をつくる<br>校訓の定める端正を周知徹底させる                                       | A  | 指導が必要な生徒も若干みられるので、放置せず適切に指導に努める。                             |  |  |   |  |   |  |  |  |                                   |
| 保健安全課        |                | 生徒の心身の健康維持                                       | 様々な場面における心身の健康管理<br>健康診断の実施                                 | 早期対応のため情報交換を密にし連携強化を図る<br>保健委員会活動を通して組織的な健康管理に関心を持たせる                         | A  | A  | 保健室と担任との連携はよくできていた。行事では保健委員がよく活動した。          | A  | 小学校、中学校が隣接していることもあり、自転車の運転マナーについても継続して指導をお願いする。 |  |   |  |  |  |                                   |
|              |                | 美化意識の向上  | 日常の清掃活動に積極的に取り組み協働する力の養成                                    | 生徒、教師とともに日々の清掃活動に意欲的に協働して取り組む<br>学校全体でのゴミの縮減と分別意識の徹底を図る                       | B  | B  | 清掃について、一人ひとり役割を認識するとともに周囲をみて協して取り組む姿勢を持たせたい。 | A  | 生徒の精神面でのケアのさらなる充実を図ってほしい。                       |  |   |  |  |  |                                   |
|              |                | 委員会活動の活性化  | 保健委員会の校内外での積極的活動<br>整美委員会の積極的な活動                            | 定期的な保健だよりの発行、福岡県生徒保健会への参加<br>HR活動を通して清掃への意識を高めるとともにゴミ縮減と分別ルールを周知徹底させる         | A  | A  | 生徒保健委員による校外での研究発表等今後も積極的に活動していきたい            | A  |   |  |   |  |  |  |                                   |
| 企画推進部        | 進路支援課          | 進路指導   | 進路指導力の向上  | 新たな学びに基づく入試研究とそのことを反映した授業を推進する<br>大学等を取り巻く環境に関する情報を共有する                       | 九州大学の出願状況(現役・前期)が100名である。昨年、一昨年と比較すると多くの生徒が受験し、難関大学への強い意欲が感じられる。 | A  | A  | 新しい学部が新設されるなど、大学の情報を教員間で共有していきたい。          | A   | 社会に出て、高校在学中に学んだことをどのように生かすか、生徒に問い続けて欲しい。   |   |  |  |  |                                   |
|              |                | 進路行事   | 主体的に活動する仕掛けづくり  | 既存の進路行事の意義を確認し改善を図る<br>1学年の文理選択に関する進路学習を充実させる                                 |  | A  |  |  |   |  | B   | 九大生ホームカミングデーで九大生以外のクラスを講師し、例年より、よりよくできた。   |  |  |                                   |
|              |                | 進路実現   | 高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成                          | 職員間で生徒情報を共有し、組織的にサポートする体制づくりに取り組む<br>総合型選抜・学校推薦型選抜に向けた指導体制を構築する               |  | B  |  |  |   |  | A   | 2年次から志望理由書の時間や学年集会など、自分への進路を意識を持たせることができた。 |  |  |                                   |
|              | SSH課           | 学校設定科目の改善実施                                      | デザイン会議、理数会議、トライアル会議での検討                                     | デザイン会議や理数会議で昨年度からの改善事項を共有し改善に努める<br>トライアル会議で教員の指導力の向上を図る                      |  | A  |  |  |   |  | A   | 新たな取組について、内容を協議し、成果と課題について共有することができた。      | A  | 学校案内での大学等の進路状況について、国公立大学が中心なので私立大学の状況も掲載をお願いしたい。               |                                   |
|              |                | 成果の発信  | 広報誌や開発した教材の発信   | 城南SSHを毎月発行する<br>開発した教材をHP等で発信する   |  | B  |  |  |   |  | B   | 城南SSHを通してSSH事業について発信することができた。              | A  | 小学校での理科実験は児童の反応がとてよかった。理数系への関心が高まった。                           |                                   |
|              |                | 授業改善の推進  | ドリカムマップの活用  | ドリカムマップを用いた研修を行う<br>教科横断型の授業や探究活動を推進する  |  | A  |  |  |   |  | A   | ドリカムマップについて共有し、教科横断型授業について、検討することができた。     | A  | 中学校への理科実験は児童の反応がとてよかった。理数系への関心が高まった。                           |                                   |
|              |                | 広報課  | 広報活動  | 本校志願者獲得のための広報活動   |  | 中学校との連携のため、学校訪問や出前授業等の円滑な処理に努める<br>本校の教育活動を反映した広報資料の作成を円滑に行う |  |  |   |  | A   | A  | 中学生および保護者に対して、様々な機会を通して、城南高校の魅力を伝えることができた。 | A  | 公式インスタグラム、中学生・小学生への説明会はとて良い取り組みだ。 |
|              |                |  | 中学校への情報提供   | 中学校訪問時の積極的な情報提供   |  | 当該生徒の部活動等の大会結果報告<br>当該生徒の進路先の情報提供                            |  |  |   |  | B   | B  | 中学校へ学校案内等の資料の提供を積極的に行うことができた。              | A  |                                   |
| 中学生体験入学の実施   | 来場者2000名程度を目指す | 学校ホームページ及びSNS等を活用する<br>ポスターを作成し、中学校等に配布し、掲示を依頼する | A   | A   | 中学生および保護者の関心が非常に高いので、満足していただけるようにスケジュール等工夫していきたい。                | A  |  |  |   |  |   |  |  |  |                                   |

|               |                          |  |   |   |  |  |  |                                    |   |  |   |  |
|---------------|--------------------------|--|---|---|--|--|--|------------------------------------|---|--|---|--|
| 研<br>修<br>課   | 職員研修の充実                  | 本校の教育課題に即した職員研修の充実   | 職員のニーズを踏まえた研修を企画し実施する<br>各分掌と連携・協力して、時機に応じた研修内容の充実を図る                                 | 人権教育授業の生徒の感想をもとに学習内容の振り返りを行い、次年度に向けた反省を行った。7月の参議院議員選挙後のアンケートでは、本校3年生の投票率92.8%を記録した。 | A  | A                                      | A                                      | 生徒指導上の法律問題等、多様な研修を実施することができた。      | A   | 小中学校には、特別支援学級があるので、いろいろな子がいることを身をもって知れている。小中学校の教師の児童生徒への接し方を学ぶのも良いのではないだろうか。 |   |  |
|               | 授業改善の推進                  | 指導力のレベルアップを目指した授業研修の充実   | 教務部・DX推進部と連携し、ICT活用授業の参観・交流を推進する<br>研究授業を中心として、相互授業参観を促進させる                           |   | B  | B                                      |  | より幅広く授業参観の機会を提供できるよう努める。           |   |  |   |  |
|               | 人権教育・主権者教育プログラムの充実       | 社会参画の力を育む教育プログラムの充実  | 人権を尊重する心を育む人権教育プログラムの充実を図る<br>18歳成年を踏まえた主権者教育プログラムを充実させる                              |   | A  | A                                      |  | 各学年の状況に応じた人権教育授業を提案し、実施後に振り返りを行った。 |   |  |   |  |
|               | 読書の奨励                    | 読書の奨励や表現活動を通じ能動的に学ぶ生徒の育成   | 新入生図書館オリエンテーションの実施により読書への関心を深めさせる<br>「読書の時間」とESDの運動により、深い思考力の育成を目指す                   | 読書の時間はリフレクションシートは高評価である。図書委員会のアンケートは高評価である。   | A  | B                                      |  | 読書の時間については、学期に1回(年3回)の実施を目指したい。    |   |  |   |  |
| 図<br>書<br>課   | 短歌による情報発信力育成             | 生徒・職員の短歌による表現活動の推進による表現発信力の育成  | 「城南歌壇コンクール」の実施と積極的奨励により、日本語による表現の育成を進める<br>歌誌「城南歌壇」の編集・発行により、生徒、教職員、保護者の表現への意欲を喚起する   |   | A  | A                                      | 年々、作品のレベルが向上している。卒業生、保護者のさらなる参加を期待したい。 | A                                  |   |  |   |  |
|               | 図書委員会活動の活性化              | 図書委員会の校内外の活動の推進による校内読書活動の活性化   | 生徒図書委員会企画(読書会や文化祭での企画)の実施による読書活動の活性化の促進<br>「高校生直木賞」などの校外読書推進活動への積極的参加によるコミュニケーション力の育成 |   | A  | A                                      | 図書委員会の活性化が進み、活動が盛んになっている。              |                                    |   |  |   |  |
|               | 第一学年                     | 基本的生活習慣の確立   | 出席皆勤の奨励   | 時間や体調等を含めた自己管理能力を育成し、出席皆勤を目指す<br>状況を判断し、意志を持って行動できる生徒の育成                            | 学校生活アンケート(年4回実施)において、「学校生活は順調ですか」というアンケート項目に対して約95%が「順調」「まあ順調」と回答している。 | B                                      | B                                      |                                    |   | 継続的な指導が必要となるため、次年度も重点的に取り組む。   | A |  |
|               | 授業の充実と学力の向上              | 単元別テストを活用した学力向上  | 単元別テストを積み上げ、基礎基本を定着させる<br>細かな学習到達度の確認と指導  |   | A  | A                                      | 生徒の実態に応じて適切なタイミングで指導を行うことができた。         |                                    |   |  |   |  |
| 進路意識の育成       | 自己の進路を自覚する               | 自己認識力を高める活動を積極的に行う<br>生徒の希望進路を把握し、個別にアプローチを行う  |   | A   | A  | 次年度も継続して行い、生徒の進路意識を高め続ける。              |  |                                    |   |  |   |  |
| 第二学年          | 基本的生活習慣の確立               | 自己管理能力の育成  | 時間・体調管理を徹底させ、出席皆勤を奨励する<br>見通しを持ち、何事も計画的に行動できる生徒の育成を図る                                 | 学校生活アンケート(年4回実施)において、「学校生活は順調ですか」というアンケート項目に対して約96%が「順調」「まあ順調」と回答している。              | B  | B                                      | 日常生活や修学旅行等の行事を通して指導を行うことができた。          | A                                  | 保護者としては、学力の伸長に期待している。修学旅行の国内一本化は、どのようなものになるのか楽しみである。希望者対象で諸人数ではあるが、オーストラリアへの研修旅行も期待している。「生きていく力」を育てて欲しい。頭で理解するだけでなく、経験して身を守る。優しくするなどの実践力が身につくような教育活動の実践を期待する。 |  |   |  |
| 信頼関係の構築       | 教師と生徒、保護者の信頼関係の構築        | 様々な教育活動を通じて生徒と同じ時間を共有することで生徒理解に努める<br>個人面談を充実させるとともに三者面談等を通じて保護者との連携を強化する            |   | A   | A  | 必要に応じて学年全体や各分掌とも連携して取り組むことができた。        |  |                                    |   |  |   |  |
| 進路意識の育成       | 自己の進路について自覚的に取り組む生徒を育成する | 様々な行事・活動への参加を促し、自分の可能性を模索させる<br>ESD探究と進路学習の両立を図る                                     |   | A   | A  | 次年度は、各分掌と連携しながら計画的にESD・HRの計画立案を図る。     |  |                                    |   |  |   |  |
| 第三学年          | 社会で生き抜く力の育成              | 自己管理能力の向上  | 早朝登校・早期自習を奨励し、学校行事や進路においてその目標達成に向けて主体的に行動する力を育成する<br>学校行事、授業の場面で他者と協力し、課題を解決する力を育成する  | 学校生活アンケート(年4回実施)において、「学校生活は順調ですか」というアンケート項目に対して約99%が「順調」「まあ順調」と回答している。              | B  | A                                      | 始業前の朝の速聴リスニングへの取り組みが不十分。実施方法等検討の余地がある。 |                                    |   | A  |   |  |
| 進路志望の実現       | 第一志望の貫徹                  | 第一志望を明確にさせ、その進路実現に必要な学力を授業で育成する<br>定期的な学年会と進路検討会で、生徒の情報交換を密に行う                       |   | A   | A  | 第一志望校貫徹のために、模試や授業の実施方法を検討していく必要がある。    |  |                                    |   |  |   |  |
| 信頼関係の構築       | 学校・生徒・保護者間の信頼関係の構築       | 保護者説明会の充実と、担任との情報交換を密に行う   |   | B   | A  | 生徒との面談や個別指導をするための時間の確保をしていく必要がある。      |  |                                    |   |  |   |  |
| 理数コース         | 理数コース事業の開発・充実            | 進路実現に繋がる理数ゼミにおける課題研究の質の向上  | 理数ゼミでの課題研究におけるデータ分析手法をこれまでよりも深化させる<br>九州大学等との連携により、大学での研究に触れ、自身の進路選択に活かす              | BeforeAferアンケートにより理数ゼミ等の取り組みを通じて有意に上昇した項目が多く見受けられた。                                 | A  | A                                      | データサイエンスの手法を徐々に取り入れ、研究の深化に繋がっている。      | A                                  |   |  |   |  |
| 校外の機関との連携     | SSH第IV期における新たな取り組みの実施    | 福岡女子大との連携を活かし、女性研究者による指導の機会を増やす<br>海外の高校との共同研究を行い、互いの研究について協議を行う                     |   | A   | A  | 海外連携に向けた準備および女子理系人材の普及・育成に繋がる企画を実施できた。 |  |                                    |   |  |   |  |
| 理数コースの活動の情報発信 | 広報誌SSHやHPでの記事の充実         | 理数コースに関わる行事を広報誌、HP、インスタグラム等を通じて積極的に発信する<br>中学生理数セミナーの生徒TA等、校外向け行事での理数コース生徒の活躍の機会を設ける |   | B   | A  | 理数コースの生徒が活躍できる場を設定できたので次年度も継続する。       |  |                                    |   |  |   |  |
|               |                          |  |   | A   | A  |  |  |                                    |   |  |   |  |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力伸長、進路志望実現の達成率向上のために、今年度から導入した知識技能確認テスト、思考力テスト、パフォーマンス課題を用いた評価システム及び校内模試を改善・深化する。</li> <li>・自転車利用時のヘルメット着用、SNS使用方法、異常気象時の対処等、生徒が安全に安心して学校生活が送れるように、人権教育、学校生活アンケート、生徒との面談等とおして生徒への指導・支援を継続する。</li> <li>・生徒による「自浄作用」が働く環境を醸成するための具体的ななしかけの用意を継続する。</li> <li>・授業や学校行事をとおして、近隣の小学生・中学生など弱い立場の人に対して、社会を守るという自覚及び優しくできる実践力の育成を充実させる。</li> </ul> |
|---|

| 学校関係者評価                                      |  |
|--|--|
| 評価(総合)                                       | 自己評価は<br>A: 適切である<br>B: 概ね適切である<br>C: やや適切でない<br>D: 不適切である |
| 評価項目以外のものに関する意見                              |  |
| 評価の中で「C」に近い「B」もあるのではないかと、「C」があると思って挑み続けて欲しい。 |  |